

モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン (為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

追加型投信 / 内外 / 株式

Premium

NISA 対象

ファンドは、NISAの成長投資枠の対象です。

※販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

ご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売用資料 2025.11

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは



**PWM Japan
Securities**

PWM日本証券株式会社
A Chartered Company

PWM日本証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第50号
加入協会：日本証券業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 設定・運用は

三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

“プレミアム企業を選んで長く持つ”

私たちがめざしているのは、プレミアム企業に集中投資を行うことにより、短期的な相場の変動や景気サイクルに左右されない持続的な投資成果を獲得することです。

中長期で運用成果を期待される投資家の方に、ぜひ当ファンドをご検討いただきたいと思います。

“長期・良好なパフォーマンスの秘訣は「減らさないこと」”

世界には様々な運用戦略が存在しますが、本戦略はお客様の資産を長期で成長させていくために、元本を減らさないことを大切にしています。

株価上昇の源泉である企業利益の安定的な成長が期待される“プレミアム企業”に集中投資することで、長期的に良好なリターンをめざします。

3,598

運用期間

パフォーマンス

年間リターンプラス年数*1

29 年超
約 36 倍
26 / 29年

グローバル・フランチャイズの運用実績

(期間：1996年3月末～2025年8月末)

100

1996年3月 2000年3月 2004年3月 2008年3月 2012年3月 2016年3月 2020年3月 2024年3月

●グローバル・フランチャイズは、米ドルベースのパフォーマンスを表しており、1996年3月末=100として指数化しています。

*1 1997年～2025年(2025年は1月～8月)の年間リターンを使用しています。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

上記は、モルガン・スタンレー・グローバル・フランチャイズ・コンポジット*2(運用報酬控除前、配当および収益再投資、本資料においてグローバル・フランチャイザーファンド)の運用指図権限の委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドによって運用され、当ファンドが投資するものではありません。グローバル・フランチャイズの運用開始日は1996年3月31日。

*2 コンポジットとは、運用のパフォーマンス測定のため、類似の投資目的、投資戦略に基づき運用される複数のファンドをまとめたものをいいます。

市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・

【本資料に関してご留意いただきたい



モルガン・スタンレー・
インベストメント・マネジメント・リミテッド
インターナショナル・エクイティ運用チーム
グローバル・フランチャイズ運用責任者

ウィリアム・ロック

インターナショナル・エクイティ運用及びグローバル・
フランチャイズ運用の運用責任者。1994年にモルガ
ン・スタンレー入社。33年の運用経験を有する。

3つのポイント

Point 1

プレミアム企業を厳選

「高いブランド力」「効率的なビジネス」「潤沢なフリー・キャッシュフロー」を兼ね備え、その循環を持続的な利益成長につなげているプレミアム企業を厳選します。

Point 2

市場の下落局面で 抵抗力を発揮してきた運用戦略

当ファンドは、元本の毀損の回避を重視することで
25年以上にわたり安定した良好な運用実績を残してきたグローバル・
フランチャイズ運用戦略を活用しています。

Point 3

世界的な金融グループであるモルガン・ スタンレーが擁する運用チーム

当戦略は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・
リミテッドの経験豊富な運用チームによって運用されています。

イズ)のパフォーマンスを表しています。グローバル・フランチャイズは、「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン マザーファンド(以下、
するマザーファンドと同様の運用プロセスを用いておりますが、当ファンドの運用実績とは異なります。また、当ファンドの将来の運用状況・成果を示唆・保証

分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

事項】の内容を必ずご覧ください。



「プレミアム企業」について

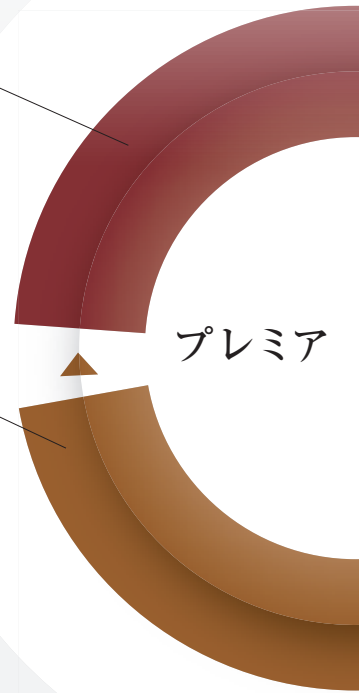
● プレミアム企業とは、「高いブランド力」「効率的なビジネス」「潤沢なフリー・キャッシュフロー」を兼ね備え、その

高いブランド力

簡単に真似できないブランド力や、替えの利かないネットワークを確立することで、価格決定力を持ち売上の継続力が高い企業は、景気や市場環境に左右されにくく、着実に利益を増加させることができると考えます。

潤沢なフリー・キャッシュフロー

潤沢なフリー・キャッシュフロー(企業が自由に使用できる資金)を持つ企業は、資金を有効活用することで、高いブランド力の維持発展や自社の成長に繋がると考えます。

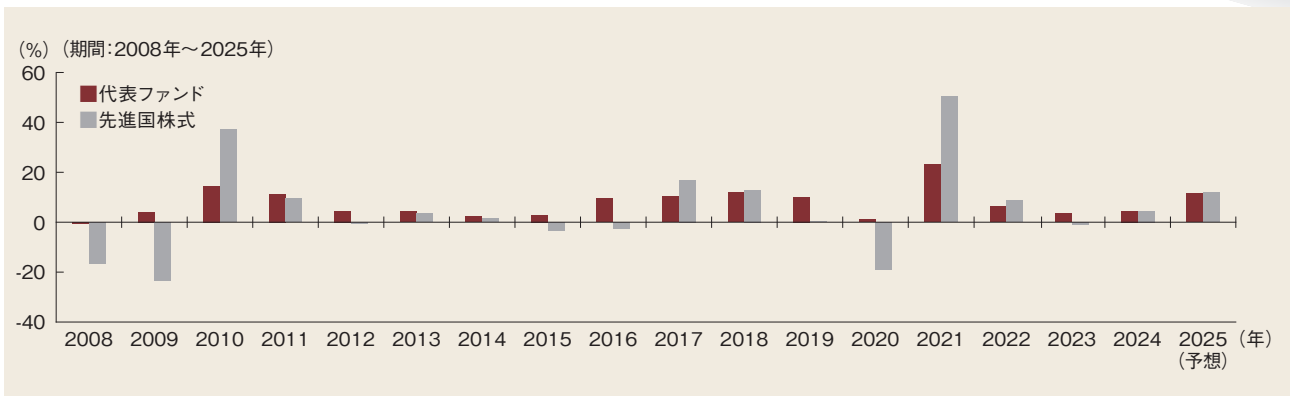


(ご参考)グローバル・フランチャイズについて 代表ファンドの利益成長率

P3,5-8では、市況推移の参考として先進国株式と比較しています。

● 一株当たり利益成長率をみると、代表ファンドがマイナスとなったのは表示期間では2008年のみであり、先進国株式と比べて安定して利益は成長しています。

▶ 代表ファンドと先進国株式の一株当たり利益成長率の推移



- 先進国株式は、MSCI ワールド インデックス(税引き後配当込み米ドルベース)を使用しています。なお同指数は、当ファンドのベンチマークではありません。
- 代表ファンドは各年末の組入銘柄の一株当たり利益の年間成長率を組入比率で按分しています。なお、取得できない銘柄は除いています。
- 上記の年間成長率は12月末を基準とした年間成長率です。例えば2024年の年間成長率は2023年12月末から2024年12月末の年間成長率を表しています。また、2025年は、2024年12月末時点における12ヵ月先予想を使用しています。

(出所) LSEGのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

上記は、グローバル・フランチャイズ運用戦略を用い、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドが運用している代表的なファンドのポートフォリオです。したがって、当ファンドのポートフォリオの状況ではありません。また、当ファンドの将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・

循環を持続的な利益成長につなげている企業をさします。

ム企業

効率的なビジネス

高いブランド力などを背景とした、粗利益率や投下資本利益率*が高い効率的なビジネスモデルを展開する企業は、潤沢なフリー・キャッシュフローを持続的に生み出すことができると考えます。

*投下資本利益率とは、企業が事業活動のために投じた資金から、どれくらいの利益を生み出したかを示す指標です。

プレミアム企業は…
持続的な利益成長が期待できる



身近なプレミアム企業

●「プレミアム企業」のビジネスは、私たちの生活に身近な製品・サービスに多く見られます。



朝食後、プロクター・アンド・ギャンブル(P & G)の「アリエール」で洗濯。



マイクロソフトのメールツールで早速メールをチェック。



アルファベットの検索エンジン「Google」で情報収集。



おやつの時間。お菓子と一緒にコカ・コーラを飲む。
食後はヘイリオンの「シュミテクト」で歯磨きをして虫歯予防。



ロレアルの「ランコム」の香水をつけてお出かけ。



レストランでディナー。ビザのクレジットカードでお支払い。



久しぶりに祖母に電話。サーモ・フィッシャー・サイエンティフィックの製品での透析治療は順調とのこと。

(出所) 各社HPを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

上記は当ファンドの理解を深めていただくため、運用報告書にて開示している2025年8月25日時点の組入銘柄の一部を身近なプレミアム企業として紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。赤字は企業名、「」はブランド名です。国・地域によって取り扱いブランド・製品は異なる場合があります。画像はイメージです。

手数料等を考慮しておりません。指数については、「本資料で使用している指数について」をご覧ください。

事項]の内容を必ずご覧ください。

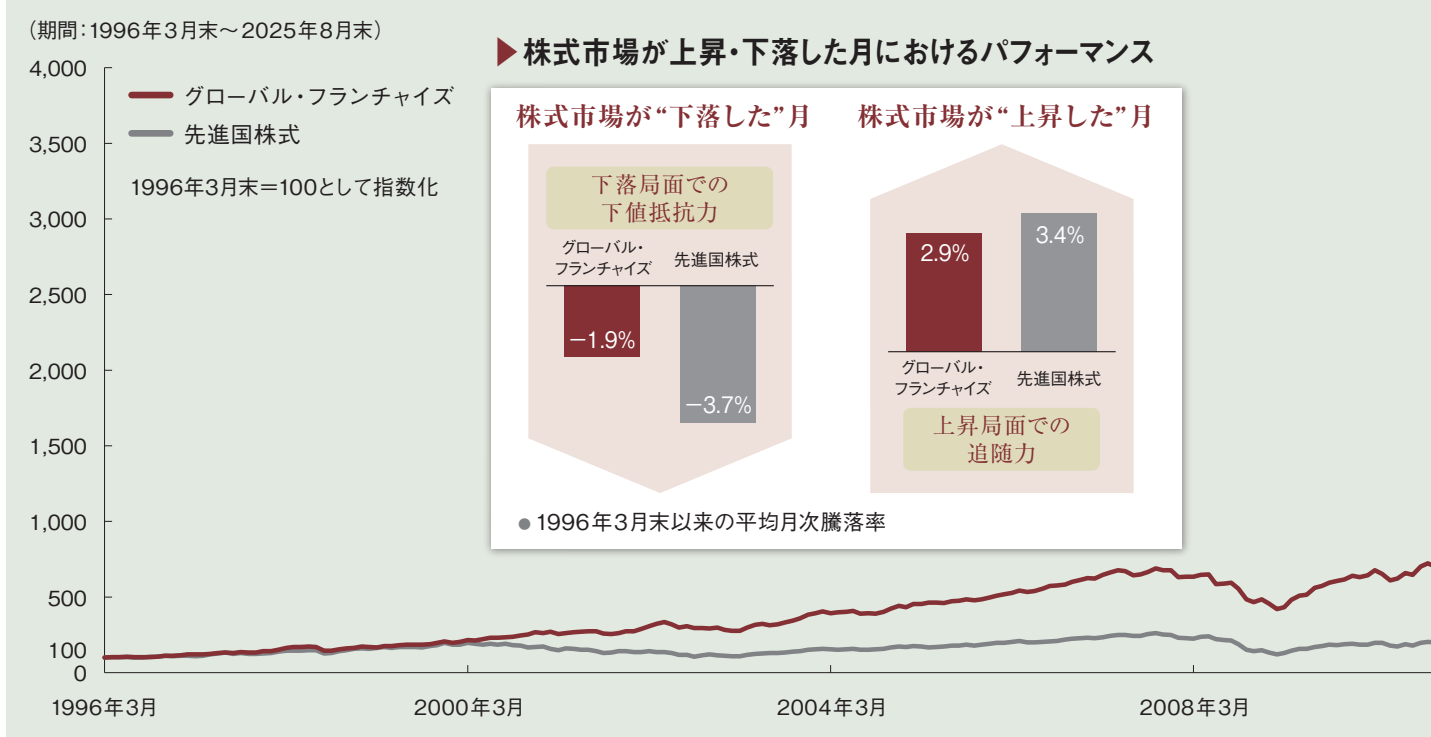


(ご参考)グローバル・フランチャイズについて

長期にわたり安定した良好な運用実績

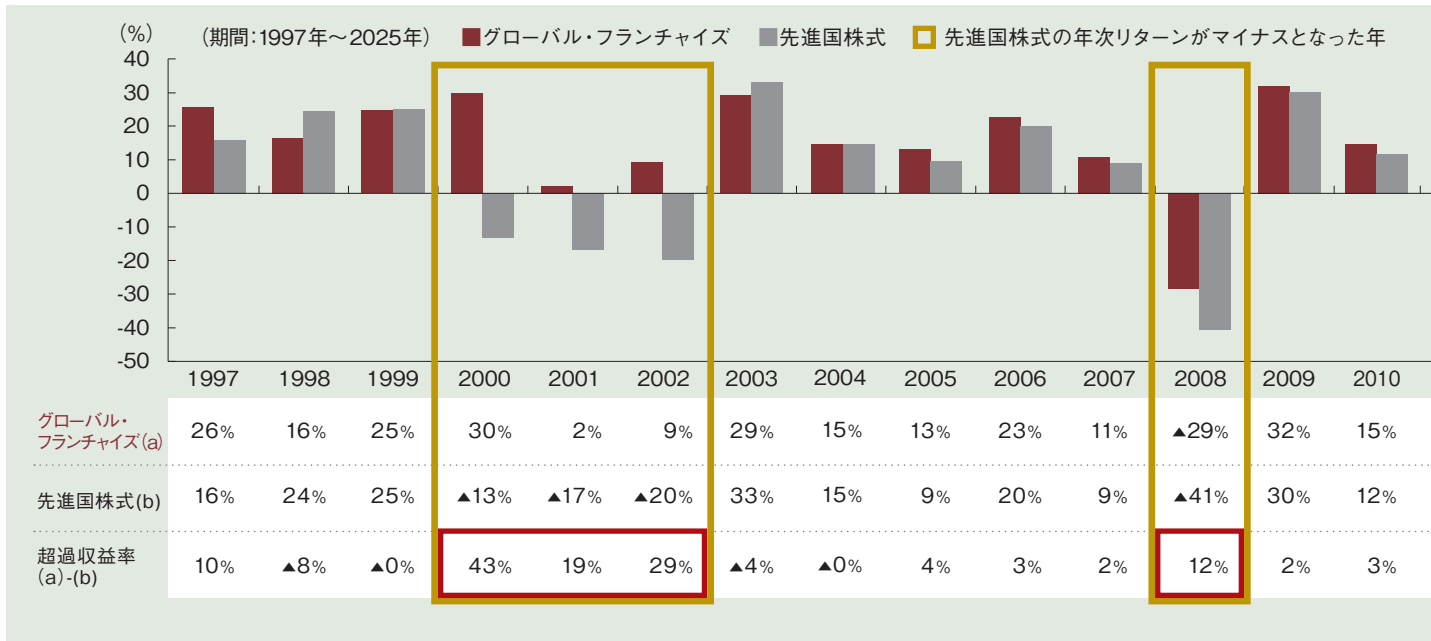
- グローバル・フランチャイズは、株式市場の下落局面で下値抵抗力を発揮し、上昇局面で追随力をみせるよりも低いリスクで効率的にリターンをあげてきました。

▶ 運用実績



- グローバル・フランチャイズと先進国株式の年次リターンを比較すると、先進国株式がマイナスとなった年に
- グローバル・フランチャイズの年次リターンがマイナスとなったのは、2008年、2018年および2022年のみ

▶ 年次リターン



● グローバル・フランチャイズは、米ドルベースのパフォーマンスを表しています。 ● 先進国株式は、MSCI ワールド インデックス(税引き後配当込み米ドルベース)を使用期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。 ● 運用実績におけるリターンは月次騰落率の平均を年率換算(月次騰落率の平均×12)したものであり、リスク

上記は、グローバル・フランチャイズ(運用報酬控除前、配当および収益再投資)のパフォーマンスを表しており当ファンド

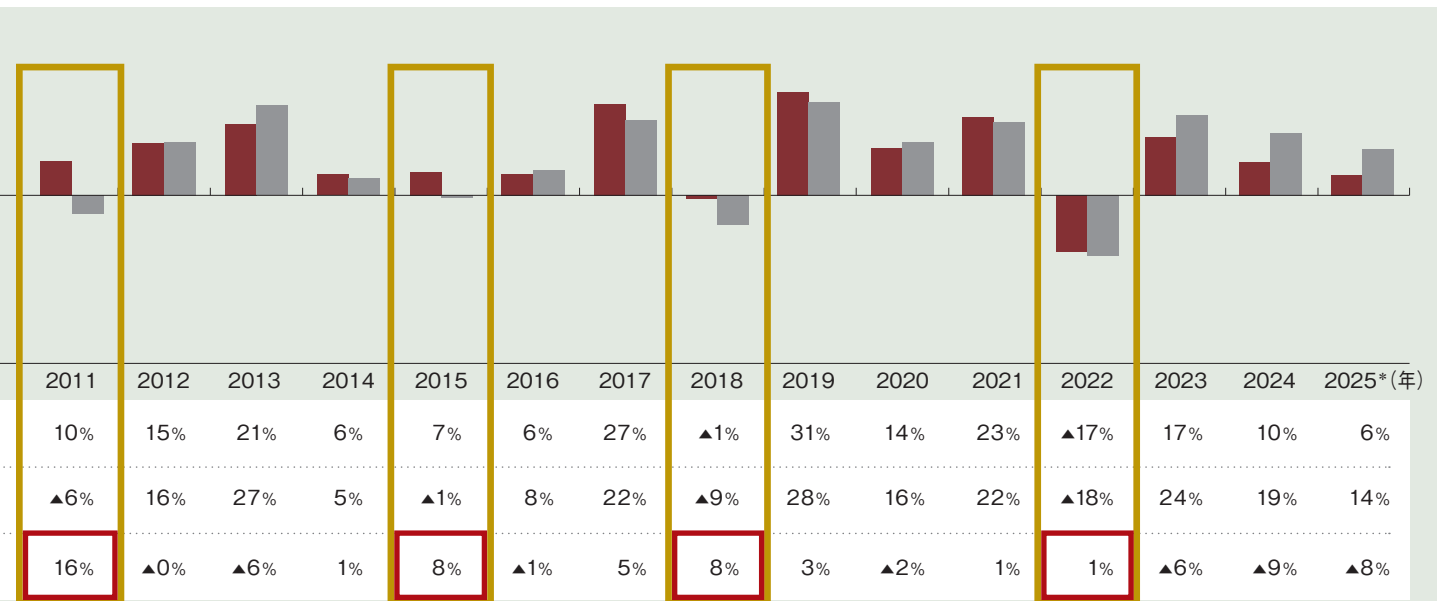
上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・
【本資料に関してご留意いただきたい

ことで、先進国株式と比べ長期で良好なパフォーマンスとなりました。また、グローバル・フランチャイズは、先進国株式

	リスク(年率)	リターン(年率)	リターン/リスク
グローバル・フランチャイズ	12.8%	13.1%	1.0
先進国株式	15.3%	8.7%	0.6



グローバル・フランチャイズが先進国株式を上回っていることがわかります。
です。

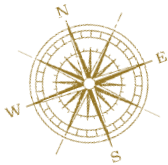


しています。 ● MSCI ワールド インデックス(税引き後配当込み米ドルベース)は、グローバル・フランチャイズおよび当ファンドのベンチマークではありません。 ● 計測は月次騰落率の標準偏差を年率換算したものです。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

の運用実績とは異なります。また、当ファンドの将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

手数料等を考慮していません。指数については、「本資料で使用している指数について」をご覧ください。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。事項の内容を必ずご覧ください。

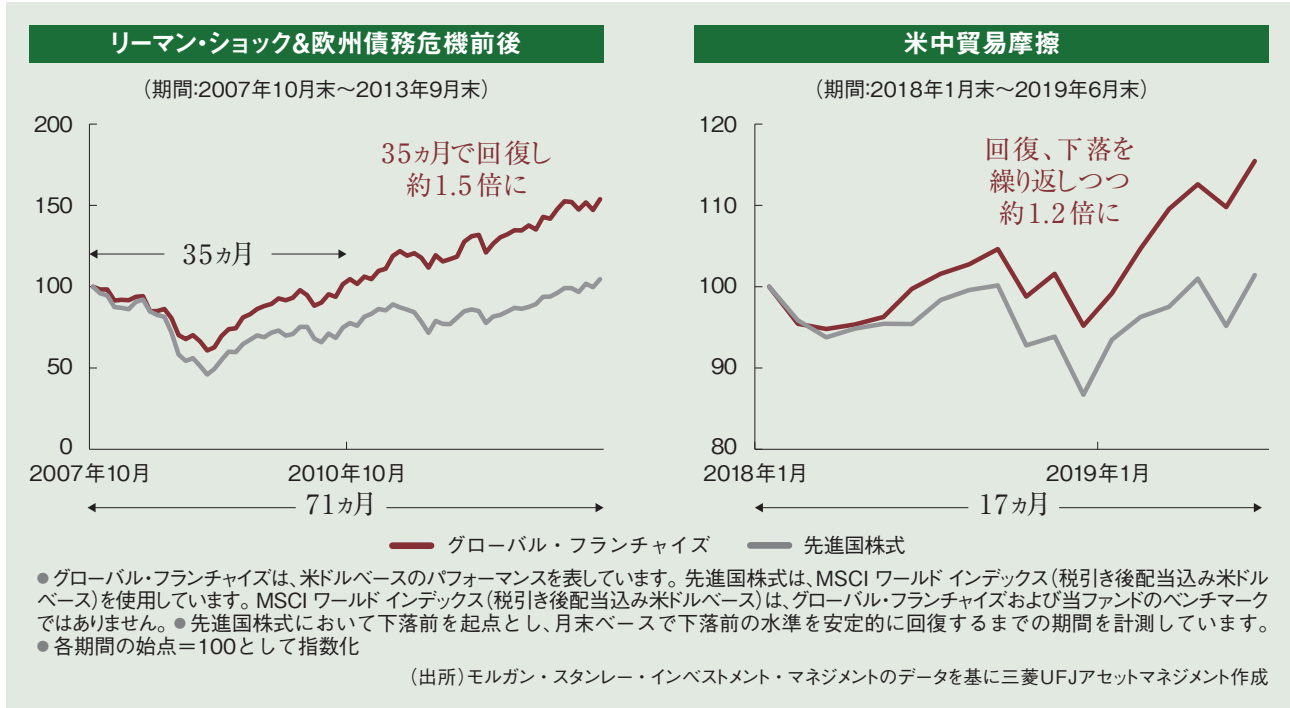


(ご参考)グローバル・フランチャイズについて

長期にわたり安定した良好な運用実績

●リーマン・ショックや米中貿易摩擦といった株式市場の下落局面別でみると、グローバル・フランチャイズは下落が相対的に抑えられ、元の水準に戻る(回復)までの期間が短くなりました。

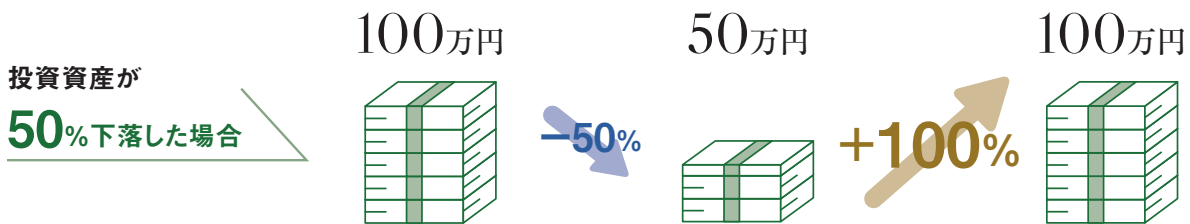
▶ 下落局面別の月次パフォーマンス



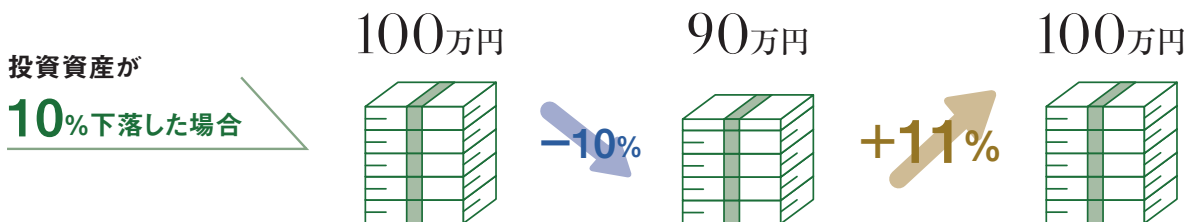
下落局面における値動きイメージ

下図の通り、価格が一度大きく下落すると元の水準に戻るためには下落率以上の上昇率が必要となります。長期的に資産を殖やしていくためには、いかに大きな下落を抑え、安定的に運用するかが重要だと考えます。

■ 投資資金をはじめの100万円まで戻すためには、下落の倍の**100%の上昇**が必要



■ 投資資金をはじめの100万円まで戻すためには、下落より大きな**約11%の上昇**が必要



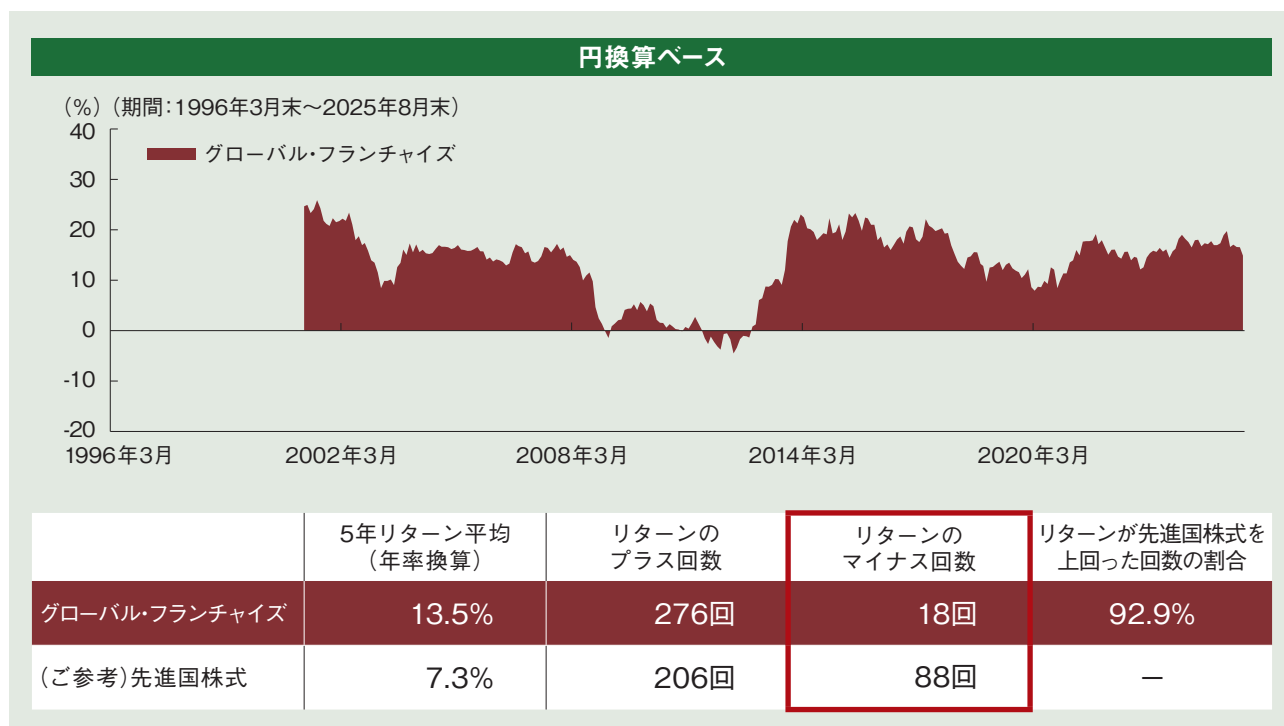
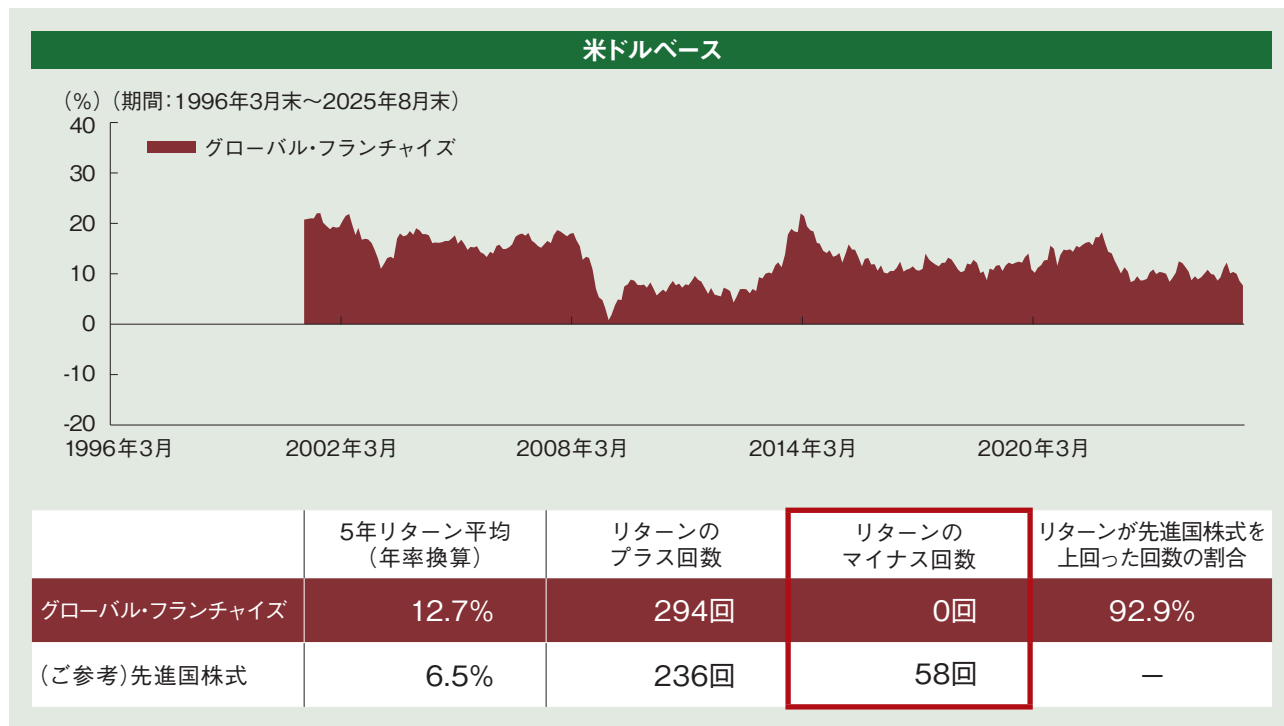
上記は、グローバル・フランチャイズ(運用報酬控除前、配当および収益再投資)のパフォーマンスを表しており当ファンド

上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・

【本資料に関してご留意いただきたい

- グローバル・フランチャイズは、先進国株式と比較して、マイナスリターンの回数が少ないことがわかります。

▶ 期間5年リターンの推移



- 上記の先進国株式(米ドルベース)はMSCI ワールド インデックス(税引き後配当込み米ドルベース)、先進国株式(円換算ベース)はMSCI ワールド インデックス(税引き後配当込み円ベース)を使用しています。なお各指数は、グローバル・フランチャイズおよび当ファンドのベンチマークではありません。
- 上記は、各月末における5年リターン(年率換算)を表しています。例えば、期間5年における2025年8月末のリターンは、2020年8月末~2025年8月末までの5年間のリターン(年率換算)を表しています。

(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

の運用実績とは異なります。また、当ファンドの将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

手数料等を考慮しておりません。指数については、「本資料で使用している指数について」をご覧ください。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。事項】の内容を必ずご覧ください。



モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント (MSIM) のご紹介

● MSIMは、1975年にモルガン・スタンレー・グループの資産運用部門として設立されました。

▶ モルガン・スタンレー・グループのご紹介

(2025年6月末現在)

モルガン・スタンレー

投資銀行、資産運用、ウェルス・マネジメントなどの幅広い金融サービスを提供する世界的な金融グループ

法人・機関投資家向け証券業務

資産運用業務 (MSIM)

パブリック市場、プライベート市場を網羅しながら革新的な投資ソリューションをお客様に提供してきた実績を有する、世界有数の資産運用会社。

ウェルス・マネジメント業務

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント (MSIM)

MSIMは、世界各国の政府機関、機関投資家、企業および個人投資家を含む多種多様な顧客層に対して、長期的に優れた運用パフォーマンスおよびサービス、ならびに包括的な資産運用ソリューションの提供に努めています。



世界の拠点
20カ国以上

運用
プロフェッショナル
1,300名以上

運用資産残高
1.7兆米ドル
(247兆円)

写真/モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント
ニューヨークのモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント本社ビル



インターナショナル・エクイティ運用チームのご紹介

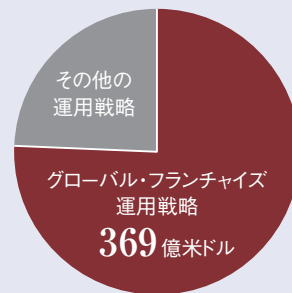


運用担当者16名が在籍しています。

● 2025年8月末現在。メンバーは予告なしに変更になる場合があります。

▶ 運用チームの残高内訳

(2025年6月末現在)



運用チームの残高全体 **488**億米ドル

グローバル・フランチャイズ運用では、運用の全プロセスを当チームのメンバーが担っています。メンバーは各自が担当するセクターの企業調査・分析を行います。運用チームとしての企業評価や投資判断は週2回行われる全体会議で行っています。こうしたチーム運用を徹底することで、運用哲学や戦略の軸がぶれない、再現性の高い運用を目指しています。また、若手からベテランまで多様なメンバーでチームを構成しており、1996年の運用開始以来、一貫した運用哲学・戦略を脈々と受け継いできました。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータ・資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成



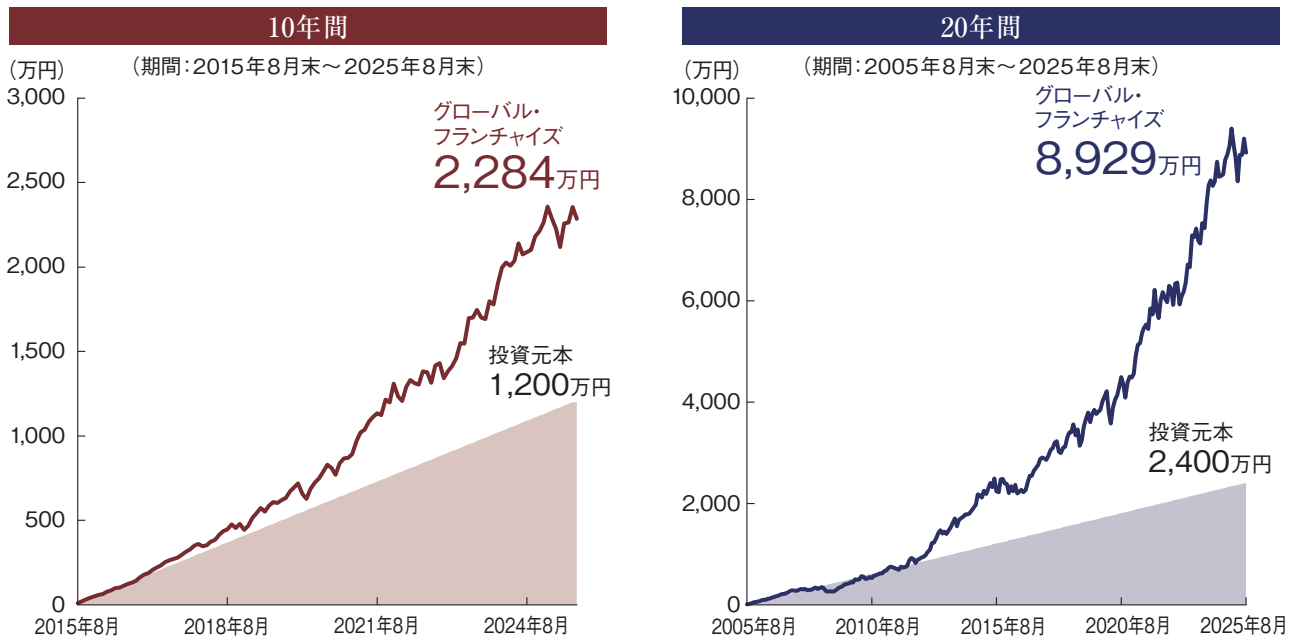
(ご参考)

積立投資をした場合のシミュレーション

下記は、グローバル・フランチャイズ(運用報酬控除前、円換算ベース、配当および収益再投資)のパフォーマンスから、「グローバル・プレミアム株式オープン」の実質的な信託報酬率(年率1.980%(税抜 年率1.800%))を控除して算出しています。税金・購入時手数料等は控除していません。グローバル・フランチャイズは、当ファンドが投資するマザーファンドと同様の運用プロセスを用いておりますが、当ファンドの運用実績とは異なります。下記のグラフ内におけるデータは、あくまで過去の値を用いたシミュレーションであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

● グローバル・フランチャイズに積立投資を行った場合のシミュレーションは、投資元本を大きく上回りました。

▶ 毎月10万円ずつ積立投資した場合のグローバル・フランチャイズ、投資元本の推移



▶ 投資期間別・毎月の積立金額別のグローバル・フランチャイズ積立投資評価額と投資元本

毎月の積立金額	5年間 (期間:2020年8月末～2025年8月末)	10年間 (期間:2015年8月末～2025年8月末)	20年間 (期間:2005年8月末～2025年8月末)
1万円	80万円 (投資元本 60万円)	228万円 (投資元本 120万円)	893万円 (投資元本 240万円)
5万円	398万円 (投資元本 300万円)	1,142万円 (投資元本 600万円)	4,464万円 (投資元本 1,200万円)
10万円	796万円 (投資元本 600万円)	2,284万円 (投資元本 1,200万円)	8,929万円 (投資元本 2,400万円)

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

- 毎月末一定金額を一定期間積立投資(最終月末を除く)したと仮定しています。
- 積立投資は運用状況によっては投資元本を割り込む場合があります。

上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

【本資料で使用している指数について】

- 先進国株式:MSCI ワールド インデックス
当指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
 - 米国株式:S&P500株価指数
 - ドイツ株式:DAX®指数
 - GICS(世界産業分類基準): Global Industry Classification Standard("GICS")は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's)が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- 写真等提供(P11、12):アフロ



～身近なプレミアム企業～

組入銘柄のご紹介

マイクロソフト



アメリカ



情報技術



銘柄概要

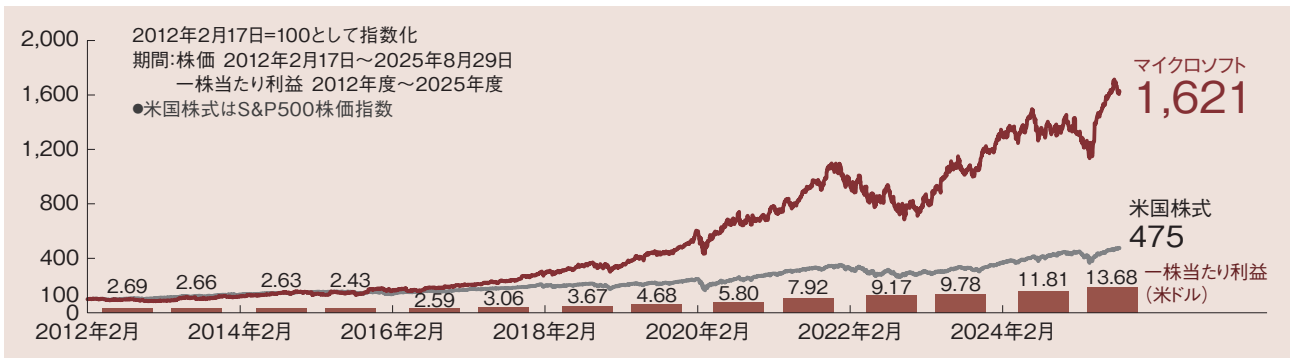
Windowsでおなじみのソフトウェア企業

世界最大級の米国のソフトウェア企業。基本ソフトの「Windows」のみならず、タブレット端末「Surface」、ゲーム機「Xbox」など、幅広い製品・サービスを提供する。また、「Azure」や「Microsoft 365」といったクラウド・サービスや、生成AIサービスの「Copilot」なども提供している。

投資のポイント

- 圧倒的なシェアを持つ「Windows」や「Microsoft 365」などのビジネス向け製品・サービスは、企業や利用者にとって業務上必要不可欠なツールとして世界中に浸透している。利用者が他社サービスで代替するのは容易ではないため同社が強い価格決定力を持っており、粗利益率は高い。
- 生成AIによって同社の製品・サービスの付加価値をさらに高めることが可能であり、今後の成長余地も大きいと考えられる。生成AIの拡大に伴うサーバー設置等で多額の設備投資が必要となるが、潤沢なフリー・キャッシュフローを有しているため、今後の成長に向けた投資を行うことが可能であり、投下資本利益率も依然として高水準。

▶ 株価と一株当たり利益の推移(現地通貨建て)



(出所) Bloombergのデータ、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料、企業HPを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

ビザ



アメリカ



金融



銘柄概要

世界最大級のクレジットカードブランドを持つ会社

1958年に創業し200カ国・地域以上で決済テクノロジーを提供する企業。クレジットカードの国際ブランドでは世界最大級のシェアを誇る。決済データの分析ができる「Visa Analytics Platform」などのサービスも法人向けに提供する。

投資のポイント

- 消費者と店舗をつなぐ世界最大級の国際決済ネットワークを既に構築している同社のブランド力、価格決定力、競争優位性は非常に高いと評価。他社が参入しにくいという決済ネットワーク事業の特性を背景に効率的なビジネスモデルを築き上げており、潤沢なフリー・キャッシュフローを生み出している。
- 消費者が現金払いからデジタル決済にシフトすることは同社にとって市場拡大を意味するが、インターネットショッピングの拡大に加え、コロナ禍以降は非接触型決済(タッチ決済)も増加しており、同社への追い風は続くと思定される。

▶ 株価と一株当たり利益の推移(現地通貨建て)



(出所) Bloombergのデータ、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料、企業HPを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

国・地域はモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの定義、業種はGICS(世界産業分類基準)で分類しています。上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であらうことにご留意ください。上記は当ファンドの理解を深めていただくため、2025年8月末時点の当ファンドの組入銘柄の中から、業種分散等を考慮して紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨

【本資料に関してご留意いただきたい】

プロクター・アンド・ギャンブル(P & G)



アメリカ



生活必需品



銘柄概要

強力なブランド力を持つ 日用品メーカー

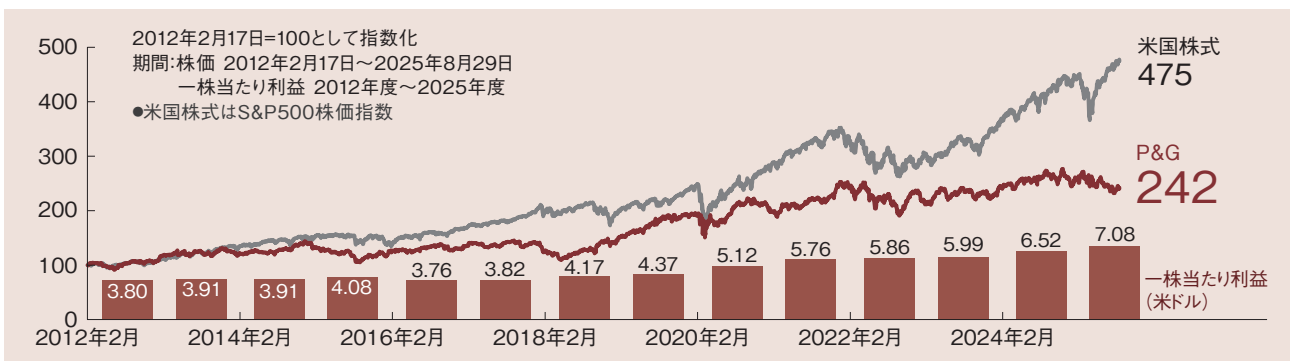
米国を基盤とする世界最大級の日用品メーカー。

おもつの「パンパース」、消臭剤の「ファブリーズ」、食器用洗剤「ジョイ」、ヘアケアの「パンテン」やスキンケアの「SK-II」など、日本でもおなじみの日用品ブランドを有する。

投資のポイント

- 同社は多くの製品カテゴリーで世界上位の市場シェアを獲得するなど、世界中の人々から信頼され、選ばれる高い価値と品質をもつ日用品を提供している。こうした高いブランド力を有する生活必需品は同業他社の製品に乗り換えられるリスクが低く、値上げや継続的な売上を実現している。
- 高い粗利益率と投下資本利益率から生み出された潤沢なフリー・キャッシュフローは、将来の成長に向けた投資に加え、株主還元にも活用されており、135年連続配当、69年連続の増配を記録している。

▶ 株価と一株当たり利益の推移(現地通貨建て)



(出所) Bloombergのデータ、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料、企業HPを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

SAP



ドイツ



情報技術



・画像はイメージです。

銘柄概要

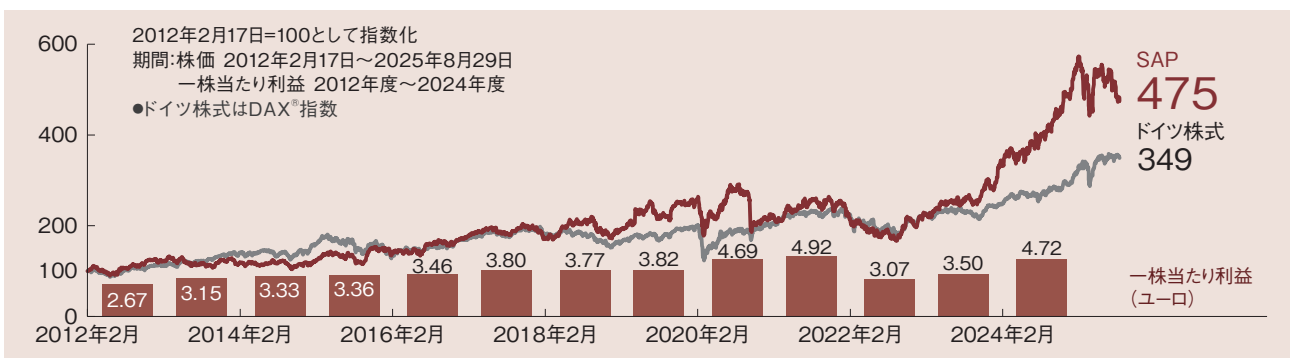
企業の基幹業務を管理するソフトウェアで世界的なリーダー企業

ドイツを基盤とするソフトウェア企業で、ビジネスソフトウェアの開発や企業へのコンサルティングなどの事業を世界的に展開。主力事業であるERP(Enterprise Resource Planning: 基幹業務の統合処理)システムでは世界大手の一角。

投資のポイント

- 世界の大手企業の多くが同社の顧客であり圧倒的なブランド力を誇る。また、顧客が会社の基幹システムを他社製品に変えることは非常に大きな負担となるため、顧客の継続性も高く、同社の価格決定力は強い。また、企業の基幹業務に特化したソフトウェア開発が主で設備投資の負担は大きくないため、投下資本利益率は高い。
- 世界の潮流であるクラウドコンピューティング、DX(デジタルトランスフォーメーション)、生成AIの進展は顧客企業の基幹業務にデジタル変革をもたらすため、同社の事業はその恩恵を受けやすく、特にクラウド関連事業が大きく伸びている。

▶ 株価と一株当たり利益の推移(現地通貨建て)



(出所) Bloombergのデータ、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料、企業HPを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

り、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。上記は指数を使用しています。指数については、「本資料で使用している指数を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

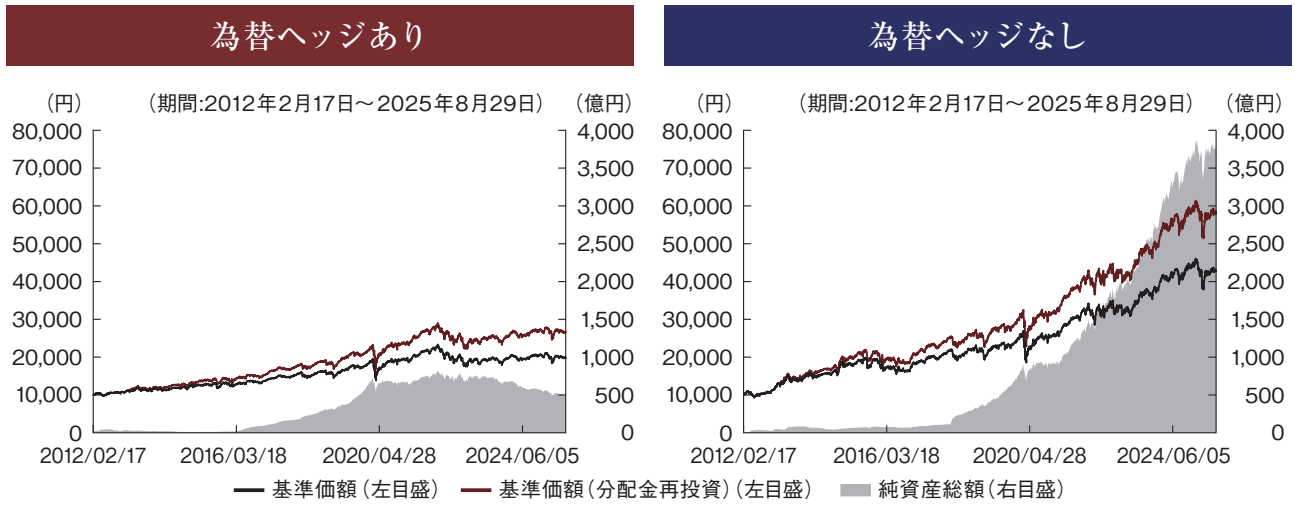
事項】の内容を必ずご覧ください。



当ファンドの運用実績

(最新の運用実績は委託会社のホームページ等にてご確認いただけます。)

基準価額および純資産総額の推移



▶ 分配金実績 (1万口当たり、税引前)

	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月	2024年2月	2025年2月	設定来累計
為替ヘッジあり	400円	400円	400円	400円	400円	300円	4,600円
為替ヘッジなし	600円	500円	500円	700円	800円	800円	7,100円

● 基準価額、基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりで運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。 ● 信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。 ● 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

● 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

(2025年8月末現在)

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率	
		為替ヘッジあり	為替ヘッジなし
1	アメリカ	76.1%	77.9%
2	ドイツ	7.6%	7.8%
3	フランス	5.2%	5.3%
4	イギリス	3.7%	3.8%
5	アイルランド	3.1%	3.2%
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—

組入上位10業種

	業種	比率	
		為替ヘッジあり	為替ヘッジなし
1	金融	24.9%	25.5%
2	情報技術	24.2%	24.7%
3	生活必需品	13.6%	13.9%
4	資本財・サービス	13.0%	13.3%
5	ヘルスケア	12.4%	12.6%
6	一般消費財・サービス	4.4%	4.5%
7	コミュニケーション・サービス	3.3%	3.3%
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—

組入上位10銘柄(組入銘柄数:34銘柄)

	銘柄	国・地域	業種	比率	
				為替ヘッジあり	為替ヘッジなし
1	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	8.3%	8.5%
2	SAP	ドイツ	情報技術	7.6%	7.8%
3	ビザ	アメリカ	金融	6.3%	6.5%
4	ロレアル	フランス	生活必需品	5.2%	5.3%
5	アーサー・J・ギャラガー	アメリカ	金融	3.8%	3.9%
6	コカ・コーラ	アメリカ	生活必需品	3.7%	3.8%
7	プロクター・アンド・ギャンブル	アメリカ	生活必需品	3.4%	3.5%
8	エーオン	アメリカ	金融	3.3%	3.4%
9	アルファベット	アメリカ	コミュニケーションサービス	3.3%	3.3%
10	ローパーテクノロジーズ	アメリカ	情報技術	3.2%	3.3%

●国・地域はモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドが定義した区分に基づいています。●比率は純資産総額に対する割合です。●業種は、GICS(世界産業分類基準)で分類しています。●表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。



ファンドの目的・特色

ファンドの目的 信託財産の成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

特色

1

世界各国の株式のうち、プレミアム企業の株式に投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。

- 当ファンドにおいて「プレミアム企業」とは、高いブランド力、有力な特許、強固な販売網など、競争優位の無形資産を裏付けに、持続的にフリー・キャッシュフローを増大させることが期待される企業を指します。

特色

2

銘柄の選定に際しては、長期保有を視野に徹底的なボトムアップ・アプローチ*を行い、利益成長の持続可能性を多面的に分析します。

*ボトムアップ・アプローチとは、投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

- 収益性、財務内容の分析に加え、保有する無形資産や経営陣の質などから利益成長の持続可能性を多面的に分析します。
- 原則として、厳選した20～40銘柄に集中投資を行います。
- 株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。

特色

3

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに運用指図の権限を委託します。

- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッド(所在地:英国ロンドン)は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの欧州拠点です。
- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントは、世界各国に拠点を持つグローバル総合金融機関であるモルガン・スタンレーの資産運用部門で、株式運用において大手の資産運用グループの一つです。

特色

4

為替ヘッジの有無により、「為替ヘッジあり」および「為替ヘッジなし」があります。

- 「為替ヘッジあり」は、外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。為替ヘッジに関しては、委託会社が行います。

※一部の通貨については、その通貨との相関が高いと判断される代替通貨により対円で為替ヘッジを行うことがあります。

- 「為替ヘッジなし」は、外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。

特色

5

年1回決算を行い、収益の分配を行います。

- 毎年2月23日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

収益分配方針

- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。
 - ・委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。
 - ・原則として、配当等収益の水準を考慮して分配します。
- (ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合があります。)

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

ファンドのしくみ

ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。なお、当ファンドはモルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン マザーファンドを通じて実質的な運用を行います。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。



投資リスク

■ 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

為替変動リスク

< 為替ヘッジあり >

投資する株式は、世界各国の現地通貨建等のものとなります。外貨建資産に投資を行いますので、為替変動リスクが生じます。これらの外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかりますが、設定や解約等の資金動向、為替ヘッジのタイミングおよび範囲、ならびに市況動向等の要因により、完全に為替変動リスクを排除することはできません。また、円金利がヘッジ対象となる外貨建資産の通貨の金利より低い場合、円とヘッジ対象となる外貨建資産の通貨との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

< 為替ヘッジなし >

投資する株式は、世界各国の現地通貨建等のものとなります。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。

上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■ その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。
- 当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

■ リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会においてそれらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を検討しています。

また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

なお、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。 ※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。

お申込みメモ

購入時	購入単位 販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
	購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。

換金時	換金単位 販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
	換金価額 換金申込受付日の翌営業日の基準価額
	換金代金 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。

申込不可日
ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行、ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかが休業日の場合には、購入・換金はできません。

申込締切時間
原則として、午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。なお、販売会社によっては異なる場合があります。

換金制限
各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。

購入・換金申込受付の中止および取消し
金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、各ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。

信託期間
無期限(2012年2月17日設定)

繰上償還
各ファンドの受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となる場合があります。

決算日
毎年2月23日(休業日の場合は翌営業日)

収益分配
年1回の決算時に分配を行います。
販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。

課税関係
課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象です。販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

スイッチング
各ファンドおよびモルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型、モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型、モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型、モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型の間でのスイッチングが可能です。販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。手続・手数料等は、販売会社にご確認ください。なお、換金時の譲渡益に対して課税されます。

ファンドの費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入価額に対して、 上限3.30%(税抜 3.00%) 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して、 年率1.980%(税抜 年率1.800%) をかけた額
	その他の費用・手数料	以下の費用・手数料についても各ファンドが負担します。 ・監査法人に支払われる各ファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、各ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。

※ファンドの費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客さま専用フリーダイヤル 0120-151034
(受付時間/営業日の9:00~17:00)
●ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

株式会社りそな銀行

販売会社(購入・換金の取扱い等)

上記の三菱UFJアセットマネジメントの照会先でご確認いただけます。

本資料に関してご留意いただきたい事項

●本資料は、三菱UFJアセットマネジメントが作成した販売用資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。 ●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。 ●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。 ●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。 ●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。